

産業学園広報

発行 北海道櫻井産業学園

編集 法人本部企画部

〒061-1196北海道北広島市中之沢

TEL (011) 372-3111

道都大学 ホームページアドレス <http://www.dohto.ac.jp/>

＜札 幌キャンパス＞
道都大学 (美術学部)
道都大学 (経営学部)

＜紋 別キャンパス＞
道都大学 (社会福祉学部)

平成十六年度入学式を両キャンパスで挙行

『百折不撓』を道標に限りなき前進を

紋別キャンパス
(社会福祉学部)

第27回 道都大学 社会福祉学部 入学式

四月十八日(日) 赤井邦男紋別市長をはじめ多数のご来賓にご臨席を頂き、第二十七回道都大学社会福祉学部入学式が紋別キャンパス体育館で厳粛に挙行された。

四月十八日(日) 赤井邦男紋別市長をはじめ多数のご来賓にご臨席を頂き、第二十七回道都大学社会福祉学部入学式が紋別キャンパス体育館で厳粛に挙行された。



「建学の精神」を説く 櫻井 政経 道都大学長

建学の精神

- 一、百折不撓と奉仕の精神を有する人に
- 二、相手を尊敬し礼儀を重んじ誠意ある人に
- 三、専門的職業人にして且哲学的産業人に
- 四、ロマンに溢れた近代的社会を創造する人に
- 五、世界人類に貢献する国際人に

「ONWARD」限りなき前進を意味します」と説明するとともに、人生は絶え間なき自己形成の道程であり、中でも青年期は重要な時期でもあるので人間尊重の精神に徹し、道義と高い気品を身

最後に新入学生を代表して後藤広之君(茨城県・常総学院高等学校出身)と長正路ひとみさん(北海道名寄光陵高等学校出身)が「道都大学の理念である百折不撓の精神を確かめながら、輝かしい理想と希望を胸にこの入学式に臨んでおります。道都大学の学則を尊重し、大学生活を通して良き師良き友の人間関係を構築するとともに豊かな国際性と先見性をもって、二十一世紀の社会福祉に確かなビジョンを提言できる専門職を目指して努力することを誓います」と宣誓が行われ式は終了した。

式が終わると緊張がほぐれたのか新入学生や父母らは入学式の看板を背に記念写真を撮ったり、学生食堂や売店でくつろぐ光景もみられた。

式は午前十一時から始まり、全員による校歌斉唱のあと、学長告辞として、櫻井政経道都大

札幌キャンパス
(美術学部・経営学部)

第27回 道都大学 札幌キャンパス 入学式



入学の宣誓を行う美術学部 高橋 夏海 さんと経営学部 阿部 博一 君

が、父母とも別れて一人暮らしすることとなり不安もあることだろうが、「百折不撓」の精神を持って心身ともに健康な学生生活を送り、それぞれの目標を達成して欲しいと願っている。

学長より「本学の五カ条からなる建学の精神のひとつである百折不撓とは、数多い、いかなる障害に出会おうとも、たゆまず元の姿に立ち戻り、更にはためみなく前進すること、つまりEVEER ONWARD、限りなき前進を意味しており、この学園で学ぶ者にとつての道標であ

り、百折不撓を心の支えとすることを希望します」と本学の教育理念を述べられ、さらに限られた時間の有効活用に触れ、自分で時間をどう使うかは、一人一人が心すべき問題であり、一度失ってしまった時間は、二度と手に入れることはできないので、時間を大事に使うことを心

がけてほしい。人生は絶え間なく自己形成の道程であり、青年期はその重要な時期でもある。そして「人間尊重の精神に徹し、道義と高い気品を身につけ、調和のとれた人間に成長し、諸君が世界の平和と文化に貢献できる人材として活躍される日を心から期待をし、有意義な学園生

活を送っていただきたい」と奮闘を切望された。
又、国内外から届いているたくさんの方の祝辞・祝電を披露したあと、これらを受けて、新入学生を代表して、美術学部建築学科美術建築デザインコース高橋夏海さん（沖縄県立首里高等学校出身）と経営学部経営学科国

際マネジメントコース阿部博一君（国立東京工業大学工学部附属工業高等学校出身）が「よい校風のもとに健全な身体と百折不撓の精神を培い、平和な学園生活を築きます」と英語と日本語で入学の宣誓を力強く行い、式は終了した。

札幌キャンパス
(美術学部)

「本学美術学部資格取得 支援プログラムにむけて」

美術学部長 佐藤 修



各種資格取得のための支援プログラム講座は、試験区分に応じた出題分類の範囲から出題項目をそれぞれの専門学科目担当のデザイン、建築両学科教員が支援しようとする体制づくりとなっている。

平成十六年度から美術学部、建築教室が中心になって、エクステンションプログラムとして、一級建築士資格はもとより、福祉住環境コーディネーター、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、色彩検定・カラーコーディネーター、商業施設士、CAD検定等の資格取得の支援プログラムをスタートさせようとしている。

例えば、「建築士・施工管理講座」の試験区分では一、二級建築士、施工管理技士学科試験共通項目の区分として設け、出題分類は、「計画、法規、構造、施工」からなる。そして、それぞれの出題項目は、計画の分野をみると「建築計画原論、建築設備、建築計画各論、計画一般、都市計画、建築史」に分節されている。そのような分節された項目に精通する本学の専門科目担当教員が、授業時間外に講座

を設けて積極的に支援しようとする仕組みである。

福社住環境コーディネーターは、これまで居住してきた地域や住居での介護（在宅介護）をすすめるため、高齢者でも快適に生活できる住環境をいかに整備するか課題から生まれた資格である。この有資格者は、福祉・医療・建築の専門家が、それぞれの専門性を活かして対応してゆくその三者間に立って共同作業（コーディネート）を進めながら住環境整備をまとめていく役割を果たすことになる。

識がきわめて吸収しやすい環境にある。特に一級の資格では、新築はもとより、住環境整備の具体的プランニングと高齢者や障害者のためのまちづくりへの参画など幅広い能力が必要とされ、本学ならではの充実した講座にその取得が期待できる。

「文部科学省認定ファッションコーディネーター色彩能力検定」という正式名称の色彩検定は、やはり、デザイン、建築双方の専攻学生に是非、在学中に取得してほしい資格である。美術系・デザイン系の学生はもとより、将来色彩という要素が深く関わるインテリアや設計関係に進もうと考えている学生にとつては主要な資格と言える。

なお、CAD利用技術者の資格取得を目指す学生を対象に、資格取得支援プログラムを組むと同様に、CG検定については、担当教員のバックアップが年々強化され実績を上げている。

以上のように資格支援プログラム構想の一端を記したが、本学美術学部が担う社会的使命は、まさに建学の精神に謳われている通りであり、デザイン・建築の教育成果の本質と決して遊離することなく産学を密接に繋ぐ絆はやはり、各種資格取得の実力を育むことに他ならない。

紋別キャンパス
(社会福祉学部)

今年も社会福祉士国家資格試験に合格

「社会福祉士国家試験に合格して」

平成十六年三月卒業 竹内 裕一

(特定非営利活動法人
サポートセンターもぺっと 勤務)

竹内 裕一 君

きたのだと思います。そのため私は今回の社会福祉士国家試験に合格することができました。

やはり、自分一人では国家試験という難関に挑むのではなく、同じ目標を持っている仲間と共に取り組んでいくことが大切なのだと思

実感しています。

このたび私は、社会福祉士の国家試験に合格しました。大学在学時から、ぜひ取得したいと思っていたので、今は喜びの気持ちでいっぱいです。

私の四年間の学生生活をふりかえってみると、尊敬でき、そして熱心に指導してくださる先生方や、何でも話し合うことができる友人たちと知り合うことができたことに感謝しています。そのおかげで、先生方や友人たちと共に励まし合いながら勉強に取り組んでいくことがで

と向き合うばかりではなく、「福祉」について興味や関心をもつことも重要なことだと思えます。自分の興味や関心のある分野をみつければ、その分野に関する知識を身につけていくことができるはずだ。「この科目だけは絶対に大丈夫だ」という自信をもつことが是非とも必要です。

最後に私から皆さんに言うことは、試験に合格したいと思えることが大切だということだ。私もそうでしたが、大学四年次は就職活動、卒業論文、バイトや友達との遊びなど、とても忙しい一年でした。一年間、試験勉強を頑張り続けられれば、それに越したことはないのですが、自分自身の切り替えをしつかりとし、遊ぶときはおもいつき遊び、勉強するときにはしつかりと勉強することが最も大切なことだと思います。大学生活を頑張るときには一杯頑張り、楽しみながら過ごしていつてもらいたいと願っています。

「社会福祉士養成教育に

取り組んで」

福祉学教室助教授 小早川 俊哉

医師や看護師と異なり、社会福祉士は名称独占であり、資格がなければ働けないわけではない。また、社会福祉士国家試験はセンター試験同様マークシート方式であることから、本来大学で学ぶべき論理的思考・表現とは必ずしも一致しないのが現状である。

社会福祉学部で福祉職を目指す学生の目的意識は、第一が社会福祉現場実習(約一カ月間)へ行くこと、第二が社会福祉士国家試験受験資格の取得、第三が卒業論文の執筆並びに卒業、第四が社会福祉士国家試験の受験である。しかし、これら四つの目的は福祉専門職への通過点でしかなく、国家試験に合格したとしても、専門性を高めるためには、常に新しい知識・技術の習得を心掛けなくてはならない。

近年、医療機関に福祉職とし

て就職する際、社会福祉士取得はほぼ既成事実化されており、他の福祉分野においてもその傾向は高まりつつある。また、職員であるソーシャルワーカーに対して、能力評価システムを導入する施設・機関も増加している。以上の様な現状認識から、学部教員が一丸となって、昨年度は非公式ながら、木曜日の五講目(四十五分間)に社会福祉士国家試験対策として勉強会を行い、夏休み・冬休み前の土曜日、並びに国家試験直前に模試を行った。

本年度は、四年生の時間割に社会福祉士国家試験対策として社会福祉特講(九十分間)を開講し、福祉社会の動向と資格取得の社会的意義を伝えることを通して、学生が現役合格へのモチベーションを高め、自ら進んで勉強する意欲を持つよう叱咤激励して行くつもりである。

方法がよいのではないでしょう。そして、最も大切なことは、問題集を一回解いて終わるのではなく、一度解いた問題集を何回も見直してみる事です。そのうちに自然と頭の中に入ってくることでしよう。

以上のように教科書や問題集

「海外姉妹大学からの来学者を迎えて」

三月十日に、ハワイ・パシフィック大学のインターナショナル・センター副部長ブライアン・ウォール氏が、そして十九日にはテネシー州立工科大学技術教育研究所長ロバート・クロハティ教授とそのアシスタントで大学院生のジェシカ・ホルトさんが札幌キャンパスを訪れた。

ハワイ・パシフィック大学ブライアン・ウォール氏は、両大学院における学生を主体とした有意義な今後の交流についての話し合いのため来学し、櫻井政経学長並びに岡島徳昭国際交流室長と打ち合わせが行われた。ハワイ・パシフィック大学には大学と大学院合わせて約六十専攻あり、約九千名が在籍し、全米五十州、世界百カ国以上から学生が集まるとも国際的な大学である。本学とハワイ・パシフィック大学とは一九八七年に姉妹提携が結ばれ、以来旧専門学校のみ道都大学に改組転換された短期大学の経営科国際コースから、五十名近い卒業生が編入している。今後は新たな交換留学制度や、本学卒業後の

大学院への留学、語学研修や短期海外研修先としての受け入れ校などの交流内容が検討され、可能性が無限大であることが再確認された。

テネシー州立工科大学のロバート・クロハティ教授とジェシカ・ホルトさんは、岐阜市で開催された第二回日本WebCTユーザカンファレンスでの発表と、本学と共同で行っているオンライン・コースについて今後の可能性を検討する目的で来日した。現在共同オンライン・コースとして英語及び国際経営論を提供しているが、今後は美術の分野でもオンライン・コースが提供可能か打ち合わせを進めることとなった。一九七八年に本学と姉妹校提携を結んだテネシー州立工科大学は六つの学部を有する総合大学で、九千人近い学生達が学んでいる。前回の語学研修、及び去年の海外短期研修において本学の学生達を受け入れてくれている。

今回、ブライアン・ウォール氏とジェシカ・ホルトさんに、日本、札幌、道都大学などの印象や感想を書いて頂いた。(札幌キャンパス国際交流室 記)

ハワイ・パシフィック大学インターナショナル・センター副部長 ブライアン・ウォール氏より



ブライアン・ウォール氏

On March 10, I had the wonderful opportunity to visit Dohto University for the first time. As we drove into the Sapporo campus gates, I was so surprised to see a welcome sign at the entrance with my name on it! This warm welcome continued throughout my stay and left me with a great impression of Dohto University as well as the beautiful city of Sapporo.

Prior to my visit, the President of Hawaii Pacific University, Chatt G. Wright, and our Associate Vice President of Academic Administration, Dr. Les Correa, visited Dohto University on several occasions. Both shared stories about the long and meaningful history between Dohto and HPU. Indeed, we have

been very fortunate to have hosted hundreds of Dohto students in Hawaii over the years, and our relationship with Dohto has always been considered one of our most important and strongest sister university partnerships.

During my visit, I really enjoyed meeting with President Sakurai, Dr. Okajima, Mr. Sakabe and Mr. Miyajima, in addition to several other staff of the university. As we toured the campus, I was particularly impressed by the variety of student work that was presented throughout the classrooms and halls, including sculpture, architecture, and computer graphics projects. We also had the opportunity to travel to Muroran Otani High School where I had the pleasure of meeting Principal Kanazawa and Ms. Fujita to discuss possibilities for their students to study in Hawaii. Finally, the day ended with a wonderful meal hosted by President Sakurai. It was delicious!

Although I was only able to visit Dohto for a day, the warm hospitality and openness of all of the staff made a lasting impression on me. Certainly the weather was much colder than what I am used to, but I could definitely feel the "aloha" spirit at Dohto! I look forward to visiting again in the near future. Thanks again for all of your kindness.

Mahalo nui loa! Aloha.

3月10日、私は道都大学を訪問することとなった。車で札幌キャンパスの門をくぐってびっくり、入り口のウエルカムボードに私の名前が書かれてあった。私へのこのような道都大学の心からの歓迎は札幌滞在中続き、道都大学に対する素晴らしい印象と札幌の美しさが私の中に刻まれた。

以前から道都大学へは、本学チャット G. ライト学長やレスリー・コレア学務担当副学長が何度か訪問していることもあり、両校の交流については色々聞いていた。今まで多くの道都大学の学生達を受け入れてきたことを、ハワイ・パシフィック大学は光栄に思っている。海外姉妹校としての道都大学は、本学にとって大変重要なパートナーである。

道都大学では、櫻井政経学長、岡島徳昭国際交流室長、国際交流担当の坂部俊行先生、宮嶋達也先生、そしてその他教職員の方々にお会いすることが出来た。学内施設見学においては、キャンパス内に展示されていた学生達の彫刻、建築模型、CGなどの作品がとても印象に残っている。道都大学訪問後、私は岡島、坂部両先生と室蘭大谷高等学校を訪問することになった。ここでは金澤孝祐校長と藤田真理子先生にお会いして、今後ハワイ・パシフィック大学と室蘭大谷高等学校との学術的交流の可能性を話し合った。夜には櫻井学長から素晴らしい夕食に招待された。

たった1日の訪問ではあったが、私は道都大学教職員の方々から忘れることの出来ない歓待を受けた。言うまでもなく、札幌の気候は私が慣れ親しんでいるものとはかなり異なっていたが、私は確かに道都大学で「アロハスピリット(精神)」を感じる事が出来た。また道都大学を訪問したいと思っている。マハロ・ヌイロア!本当にありがとう。



ハイテクアート室にて上坂 恒章 専任講師の説明を聞きながら学生の作品を楽しむウォール氏



国際交流室のスタッフとウエルカムボードの前で

テネシー州立工科大学大学院生・アシスタント ジェシカ・ホルトさんより



ジェシカ・ホルトさん

On the plane from Detroit to Nagoya, Japan, I had plenty of time to think about my first experience over seas. What would the countryside look like? What were the people like? Would I pick up the language? The excitement and fear overwhelmed me when I walked off of the airplane. No more signs in English; no more people who looked like me or spoke my language; I knew two people in the entire country. I knew that I was in for an adventure.

The purpose for my visit was the WebCT Japan conference in Gifu City. Dr. Robert Clougherty, my thesis director and professor, Tosh Sakabe, and I were to present at the conference on the second day. I was extremely nervous because I knew that conferences were different in Japan than in the United States. As time grew closer to my time to present, I grew much more

confident as I came to terms with the fact that even if I mad a fool of myself, no one at home would be the wiser. I relaxed and gave my part of the presentation on the joint class between Tennessee Tech and Dohto University. I shared the good things and the elements we found that needed improvement, and shared our future plans for collaboration. Much to my surprise, our presentation was a hit. I was excited to see that people were interested and asked many questions. Many campuses seem to be interested in trying to bridge cultural gaps by modeling their programs after ours.

After the success of the conference, we traveled on to Nagoya, a much larger city than the town where I live. I had enjoyed Gifu, but I really liked the bustle of the city in Nagoya. We only stayed there a short time and then traveled on to Sapporo. Sapporo was the best experience by far. All of the plane, train, and automobile rides had been worth the wait. The snow was beautiful, the mountains spectacular, and the city was amazing. We did some sight seeing, had some interesting experiences in restaurants, and got familiar with the city the first night there. The next day was our visit to Dohto University.

I did not know what I expected to see at the University, but I could not have imagined that I would like it so much. I loved the campus, the architecture, and the people. The library at Dohto is so student-friendly and functional, and the Media Room is truly state of the art. I saw the work of some of the students and I was

blown away by the talent. We had the privilege to meet and have tea with President Sakari, Dr. Okajima, and some of the other faculty we had worked with on previous occasions. We were treated not only as guests, but friends. I felt very at home at Dohto and the visit was, by far, my favorite experience of the entire trip.

After our truly impressive day at Dohto University, we had dinner at the Sapporo Beir Garten. The food was amazing. We then visited the J.R. Tower to view the city at night and I am not sure I have ever seen anything so beautiful in all of my life. The city is like nothing I had ever seen before and the company could not have been more hospitable or entertaining. I truly had an excellent experience in Sapporo.

The next day, we went out for some sight-seeing. We went to the Hokkaido Shrine, the ski jump, and to "Red Brick". All of those sites were very much fun and much different than anything we have in America. Tosh also took us shopping that day for souvenirs; I am so grateful for his patience and perseverance as we sought the perfect gifts for almost everyone we knew.

The plane ride back home was so long. I began to wish I would have just stayed in Japan. I could not have had a better experience or a better tour guide and host. I will make plans to visit again as soon as I learn the language! Maybe we can trade language lessons. Dr. Clougherty and I truly thank you for hosting us and making our stay a memorable experience. I hope to be able to return the favor in the near future.



第2回日本WebCTユーザカンファレンスでの共同発表



櫻井 政経 学長と懇談する
クロハティ教授とホルトさん



ウエルカムボードの前で

名古屋へ向かう飛行機の機内では、初めての海外渡航に思いをはせる時間が充分すぎるほどであった。日本とはどういう国なのだろう、日本人とはどんな人たちだろう、そして日本語を理解できるのだろうか。名古屋空港に到着して飛行機から降りるとき、期待と不安で私の中はいっぱいになっていた。英語標記のサインなどはなくなり、ガイジンの姿も消えつつあった。この異国で私の知っている人はたったの2人。アドベンチャーの始まりだった。

今回私が日本に来た目的は、岐阜で開催された日本WebCTユーザカンファレンスでの発表のためであった。私と私の修士論文担当のロバート・クロハティ教授、そして道都大学の坂部俊行先生の3人で、カンファレンス2日目に共同発表をした。異国の地でのカンファレンスということもあり、私はとても緊張していた。私達の番が近づくにつれて、もしここで失敗したとしても、アメリカの知り合いは知る由もないのだという気持ちになり、私はリラックスしてきた。私達の発表はテネシー州立工科大学と道都大学とで実施した共同授業に関してで、私の担当はこの試みの利点と改善点、そして今後の展開を紹介することだった。発表は予想以上に、多数のカンファレンス参加者の興味を引いたようで、発表後の質疑応答ではたくさんの質問が出てきた。多数の教育機関からの参加者は、私達のプログラムを参考にして、異文化ギャップに橋を掛けることに関心を持っているようだった。

カンファレンス終了後、私達は名古屋へ移動した。名古屋は私が住んでいる町とは比べものにならないくらい大都会であった。岐阜もよかったけれど、私は名古屋の都会的な賑わいもとても気に入った。名古屋は通り過ぎる程度で、私達は札幌へ飛んだ。私にとって札幌訪問は最高の経験となった。日本に到着してから飛行機、電車そして車に乗り継ぎやってきました。時間をかけて来た甲斐のある場所だった。美しい雪景色、壮大な山々、そして驚嘆すべきダウンタウン。札幌に到着した夜、少し街を見て歩いたり、レストランに入ったりと町を探索しながら異文化体験をし、翌日は道都大学札幌キャンパスを訪問した。

道都大学がどのような大学か日本に来るまで知らなかった私ではあったが、実際訪問してみてもこんなに気に入ると思わなかった。キャンパス、建物、そこで働く人々そして学生全て。学生が使いやすい機能的な図書館や最先端のハイテクアート室を見学したり、学内に展示してあった学生の作品を見るのが出来た。私は道都大学で学んでいる学生達の才能には驚かされた。私達は光栄にも、櫻井政経学長と岡島徳昭国際交流室長やその他以前に面識のある先生方にお会いすることが出来た。私達は来客としてもなしを受けただけでなく、友人として歓迎された。今回の日本での日程の中で、道都大学訪問が一番最高だったことは言うまでもない。

この日の夜、私達は櫻井学長から夕食の招待を受け、サッポロビール園で美味しい料理を楽しみ、夕食後はJRタワーの展望台から札幌の夜景を満喫した。それは今まで見たことのないくらい美しい夜景だった。同行していただいた櫻井学長並びに岡島室長、そして坂部先生は、私達に大変気を遣ってくれていた。私にとって札幌訪問は、素晴らしい経験となった。

翌日、私達は坂部先生に案内されて市内視察に出かけ、北海道神宮、大倉山スキージャンプ場、そして“赤レング”を訪れた。見るもの全て興味深く、珍しかった。視察後はショッピングに連れて行ってもらい、お土産を物色した。私達の買い物に辛抱強く付き合ってくれた坂部先生に感謝している。

帰国に際しても長時間機内で過ごさなければならず、私はこのまま日本にいられたらと思いついた。私にとって今回の日本訪問は、全てにおいてとても実のある経験になった。櫻井学長をはじめ、道都大学教職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいである。日本語をマスターしたら、是非また来たいと思う。今後、両大学の共同オンライン・コースで日本語のコースが実施できればと思っています。クロハティ教授並びに私自身は、道都大学の多大な歓迎と日本滞在に對してのご配慮に大変感謝している。今後も両校間でよりよい関係を築いていくことを祈念する。

(訳 札幌キャンパス国際交流課長 坂部 俊行)



佐藤 修 美術学部長より一人ひとりに登録証を授与

社団法人商業施設技術者・団体連合会が認定する「商業施設士」は、商業施設を総合的に計画・デザイン・管理する専門家として、店舗や建築の設計事務所、マーケティングコンサルタント会社、建設会社、広告代理店、百貨店など多くの職場で活躍しています。さらに、楽しく賑わいのあるまち、地域文化や歴史・風土を生かした豊かなまちづくりを具現化する役割も担っており、行政や公的機関では有資格者が増えています。受験資格は、一次試験は二十歳以上、二次試験は学歴と実務

札幌キャンパス
(美術学部)

「四年生三十一名に 商業施設士補登録証が授与される」 商業施設士資格認定課程の認定校となつて

経験により異なりますが、商業施設関連課程のキャリアラムを有すると認定された大学では、実務経験が最短の一年に短縮されます。道都大では、平成十五年九月に、美術学部デザイン学科と建築学科が認定校となりました。同時に、連合会の講習修了者には「商業施設士補」が授与されることになりました。この講習は三・四年生が受講できるので、三年在籍中に「商業施設士補」となることができます。平成十五年度の資格認定講習会は去る二月二十八日に実施され、デザイン学科と建築学科の三十一名が受講しました。その結果全員が合格し、四月七日の新年度四年生オリエンテーションにおいて、「商業施設士補」登



デザイン、建築両学科の合格者全員で記念撮影

録証が授与されました。登録証を手にした学生は、就職活動に有利なキャリアが得られたと張り切っていました。今回の講習にも多くの後輩達がチャレンジし、登録証を手にするのを期待しています。
(建築学科長 伊藤 寛 記)

札幌キャンパス
(美術学部)

卒業生からのメッセージ

「社会人になるにあたって」

平成十六年三月建築学科卒業 吉川 雅枝
(株式会社土屋ホーム勤務)



吉川 雅枝 さん

この春、たくさんの思いが出が詰まった母校を卒業しました。建築学科の学生を代表し、今後の抱負を述べさせて頂きます。私の人生に大きな影響をもたらした出来事は、同じ志を持った仲間、指導熱心な先生方と出会えた事と、アルバイト経験の中で、お客様への意識、仕事への取組姿勢に大きな変化が訪れた事です。これらが土台となり、四年間の集大成として納得のいく卒業制作を完成させる事が出来ました。私はアルバイト経験で得た「お客様への意識」を就職活動で十分に企業へアピール出来ました。結果、夏休み前に早期内定が決まりました。ただ、就職活動は本当に厳しい現実でした。活動を開始する迄、自分の可

能性を模索する事に夢見がちでしたが、三年の春に合同企業説明会に参加、場内六千人の学生がひしめき合う姿を目の当たりにし、本気で取り組む決心が付いたのです。多忙な日々を過ごし、何とか乗り越えた結果、内定を頂く事が出来ました。また新しい気付きとの出会いもありました。それは「自立心」についてです。人は収入を得る経験を通し、自力で生き抜く意識と方法を見つけていくのだと思います。これは、就職活動を通して自分の将来を見つけていく事と変わりが無いことに気がきました。何かに一生懸命取り組む事が、自分自身の生き方に繋がっているのでしょう。私達はこれから社会人として、道都大学の四年間の経験、知識、知恵を次へのステップにし、どんな仕事にも一生懸命取り組み、早く一人前の仕事が出来よう頑張っていきたいと思っています。最後に、これまで私達をご指導下さった教職員の皆様にご心から感謝申し上げます。

紋別・札幌キャンパス
(社会福祉学部・
美術学部・経営学部)

本年度も特別授業を開催

～ 昨年度も好評で一カ月早めて開始 ～

本学では、高校生が将来の進路を決定する上で、その動機付けに役立つことが出来ればという趣旨のもと、本学教員が高等学校に出向いて特別授業(出張授業)を行うということを計画してから、今年で五年目を迎えることとなった。

昨年度は実施対象を全道の高等学校から、一部道外の高等学校まで含めることとしたこともあってか、三十三校からの申し込みがあり非常に好評であった。そこで、今年度の実施対象



古典文学について講義する 小川 昭一郎 教授



暮らし回りの景観について講義する 倉本 龍彦 教授

～ 〈特別授業に関するお問い合わせ・相談窓口〉 ～

- 〒094-8582 紋別市落石町 道都大学(紋別キャンパス) 事務局事務部教務課 TEL (01582) 4-8101
- 〒061-1196 北広島市中の沢 道都大学(札幌キャンパス) 事務局教務部教務課 TEL (011) 372-3111

特別授業は全道、一部道外の高等学校を対象に、平成16年12月まで行います。

は昨年度同様道外も含めることとし、実施時期については一カ月早め、四月下旬からとした。

実施方法は、昨年同様、まず開講科目として「一般教養」「建築・工学」「美術・デザイン」「経営・金融」「情報・ネットワーク」「福祉」のそれぞれの各分野別に各教員から提出された授業のテーマ・内容を一覧にして各高等学校に配布し、それを受けて高等学校の希望のテーマ・時期等を申し込んでいただくという方法である。

この特別授業は十二月まで実施する予定であり、高等学校からのご要望があればそれに応える態勢である。

大学の授業の一端を実際に体験するという機会はそう多くはないと思われるが、この特別授業を有効に活用し、今後の勉強面さらには進路を考えていく上での一助になることを期待している。

「道都大学で成長した4年間」

平成十六年三月デザイン学科卒業 本田 護
(株式会社エイチ・アイ・ディ勤務)



本田 護 君

くれました。

私は道都大学の四年間で「やるからにはやる」というこだわりを身に付ける事が出来ました。それは「映像作品制作」「博物館学芸員資格取得」「教員免許取得」の三つです。これらをこなすには大学での四年間は「時間」「自分」との戦いでした。

私の経験で言えるのは、こだわりを持って道都大学での四年間を過ごした事で、幅広い視点で物事を考えられる思考力が身に付いたという事です。それは就職活動の場面で思う存分に実力を発揮できるというメリットをもたらしてくれました。

三年生になり、自作のパソコン作りと映像作品制作に取り組んできましたが、それは自分のやりたい事の専門性を深める為でした。この事が、好きな事を一生懸命やる喜びを更に大きくし、将来の就職先を明確にして

三年生の春休み、流れに乗って就職活動を開始し、合同企業説明会に参加しましたが、ライバル学生の多さに驚かされました。しかし、逆に「絶対やってやる!」と決心し、「僕には今まで取り組んできた自分のウリがある!」と、明確に気付く事が出来ました。それからは今迄手掛けてきた映像作品を如何に企業目の留まる様に工夫出来るか考え、プレゼンテーションツールを作りました。

第一志望の映像制作会社で迎えた本番では、背伸びしないありのままの実力で勝負し、内定を頂く事が出来ました。自分がやってきた事に間違いがないことが証明されたのです。

これからは企業の一員となり、様々なセクションで仕事をしていきます。自分がやってきたスキルを活かす事はかり考えるのではなく、広い視野で様々な仕事に積極的に取り組む、全力投球していくことを目標に頑張ります。

キャンパス
札幌校
（社会福祉学部・経営学部）
（美術学部・理学部）

アテネ五輪代表選考会 「第三十七回全日本選抜体重別選手権大会」 で柔道部 出花 崇太郎 選手が三位入賞



出花 崇太郎 選手
～大会場の前で～

四月四日(日) 福岡市民体育館で、アテネ五輪代表選考会を兼ねた第三十七回全日本選抜体重別選手権大会が行われ、本学から出花崇太郎選手(経営学部・二年)が73kg級に出場した。本大会は財団法人全日本柔道連盟から選抜された各階級八名のみ参加することが出来、道内大学からの出場は初の快挙であった。昨年、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会二位、講道館杯三位、チエコ国際大会出場と、大きな自信を得た出花選手は、この大舞台でも得意の寝技を繰り出し持ち前の「変則柔道」を披露した。

一回戦では、昨年の講道館杯の覇者、優勝候補の一人として見られていた、石川美久選手(総

合警備保障)と対戦し、試合中盤、すみ返しで技ありを奪い、その後も得意の寝技を出し続け、見事に勝利し、準決勝進出を果たした。準決勝では、昨年の世界選手権日本代表であった金丸雄介選手(了徳寺学園)を一本で破って波に乗る園田悠二選手(東海大学)と対戦。警戒していた朽木倒しで一本負けをし、惜しくも決勝進出を果たすことは出来なかったが、大学二年生ながら堂々の三位入賞を果たした。

残念ながらアテネ五輪への出場はならなかったが、代表に選ばれた高松正裕選手(旭化成)には昨年の講道館杯で一本勝ちをしており、総合的な結果を評価され、十月にハンガリーで行われる世界ジュニア柔道選手権大会の日本代表候補選手として選出された。これから東海大学で行われる全日本強化合宿、韓国遠征などに派遣されることが決定し、世界に向けて大きな一歩を踏み出した。

(監督 田崎 元久 記)

キャンパス
札幌校
（経営学部・経営学部）
（美術学部・理学部）

サッカー部 権東 勇介 選手が コンサドーレ札幌の 特別指定選手として契約



権東 勇介 選手

経営学部情報マネジメントコース四年権東勇介選手(桐光学園高等学校出身)がコンサドーレ札幌と特別指定選手として

の契約が行われ四月一日付で財団法人日本サッカー協会より承認されました。特別指定選手とは高等学校又は大学のチーム

に所属しながらJリーグの試合等に出場できる制度で、日常の練習や合宿・遠征試合などにも帯同し個人の能力を最大限に引き出すことが目標とされており、大学のチームが必

キャンパス
札幌校
（社会福祉学部・経営学部）
（美術学部・理学部）

社団法人全日本学生柔道連盟主催 ハワイ海外研修に参加 「ハワイ海外研修を通じて」 経営学部三年 野尻 泰生

今回、北海道の学生を代表し、海外研修生として一週間ハワイに行ってきた。毎年行われているのだが、外国の人々と柔道が出来る事になり、自分自身の柔道の幅を広げる事を目標に日本を出発した。

練習は、初日から始まり町道場で行われた。今まで自分が小学校の頃から経験してきた日本の柔道とは多少雰囲気の違い、ハワイの人々は子供から大人まで勝ち負け関係なく柔道を楽しんでやっていた。柔道は、成績だけのスポーツではないが、やはり結果が求められるスポーツ



ハワイ州ヒロ市にて
(前列右から一番目 野尻 泰生 選手)

要となればチームに戻り大会等に出場することができる。先に行われた四月四日のサテライトリーグ(VS東京ヴェルディ)にコンサドーレ札幌の選手として出場し、今後はJ2リーグに出場となれば大学生Jリーガーとして期待される存在になる。期間は今季の活動対象試合終了までとなっている。本学サッカー部においては、昨年度は副主将としてチームを引っ張り天皇杯予選・学生リーグ戦での優勝に貢献し、Jリーグのチームから注目を浴びている。今年度は主将に抜擢され更なるチームの向上と益々の活躍に期待が持たれる存在になるとと確信しております。

(監督 田代 正信 記)

札幌キャンパス
(美術学部)

デザイン学科
第七十二回版画展、
第五十四回モダンアート展に
本学学生・卒業生が入選

今年も春の公募展シーズンがやって来ました。現時点でわかっている本学からの入選結果を速報します。

「Tabiji 1/2」和田 安希子

まず社団法人日本版画協会主催の第七十二回版画展に卒業生一名、学部生二名の計三名が入選しました。「版画展」は公募団体の主催する版画の展覧会としては日本で最も権威あるもののひとつであるといえます。本学からは初出品です。入選者は以下のとおりです。

宮口拓也 卒業生(東京芸術大学大学院)



「雀オンエア プロトタイプ」宮口 拓也

である。しかし、結果や実力など一切関係なくみんなが一所懸命柔道をしていた。一番残念であったことが、「言葉の壁」である。言葉は正確に伝わらなくても、大人の人には身振り手振りで伝えられた。しかし、子供にはほとんど伝えることが出来なかった。コミュニケーションをとる為の言葉

作品「雀オンエア プロトタイプ」

B0判 シルクスクリーン

インパクトのある構成で作者の意図が見事に凝縮されています。

渡辺政光(四回生)

作品「巢」

四六全判 シルクスクリーン

繊細な版作りで隅々まで行き届いた調色と構成です。

関谷修平(三回生)

葉が通じない事は、最も辛く痛感した事であった。今回の海外研修は、自分にとってプラスになることが多かったと思う。柔道に対する姿勢や考え方が大きく変わった。また、コミュニケーションをとる事に言葉の大切さが身にしみて感じた。大変な事もたくさんあったが

作品「不安」

四六全判 シルクスクリーン

重く暗い色調を明るくラインドゥくり直して主題を浮び上げさせました。

次は第五十四回モダンアート展の報告です。モダンアート協会も由緒ある有力団体のひとつですがこれも本学からは初出品です。出品者は一名です。

和田安希子(三回生)

作品「Tabiji 1/2」

貴重な体験をさせて戴いたと思う。英単語一つにしても学んでいけば、ハワイでの生活はもっと楽しいものになったのではないのかと思うと残念である。この体験を日本で生かし、柔道に対する姿勢や競技力を向上させていきたいと思う。

B1判 版画 シルクスクリーン

楽しく軽やかな構成で壁紙や包装紙、テキスタイルなどあらゆるものに転用できそうです。

現時点で結果が出ているのは以上の四点ですがまだまだこれから国展、春陽展等の結果が出ます。次号でよい結果が報告できることを期待しています。

(デザイン教室)

助教授 中島 義博 記

※学年等は入選当時です。



「巢」渡辺 政光



「不安」関谷 修平

学校法人 北海道櫻井産業学園 理事・監事名簿

(自 平成15年4月1日 至 平成19年3月31日) 任期4ヵ年 (平成16年4月1日現在)

Table with columns: 選任条項, 氏名, 役職名, 選任条項, 氏名, 役職名. Lists board members and their roles.

学校法人 北海道櫻井産業学園 評議員名簿

(自 平成16年4月1日 至 平成18年3月31日) 任期2ヵ年 (平成16年4月1日現在)

Table with columns: 選任条項, 氏名, 役職名, 選任条項, 氏名, 役職名. Lists evaluators and their roles.

採用 平成16年4月1日付 大学秘書室

人事異動 上野 香織 技師補 秘 書課員 石垣 早苗 主事補 秘 書課員(研究センター総 長室担当)

大学(紋別キャンパス) 佐藤 忠道 助教 福 社学教室所属

昇任 平成16年4月1日付 町田 好浩 入試第三課 長(入試第一課長補佐)

大学(紋別キャンパス) 横堀 愛理歌 教務課員 (第一主査) 教務課員 神戸 真弓 教務課員 (第二主査) 教務課員 安藤 貴之 学生課員 (主査) 学生課員

宇藤 潔 参事 人事部 長

資金収支予算書

(単位 千円)

Table showing income and expenditure budget for funds.

消費収支予算書

(単位 千円)

Table showing consumption income and expenditure budget.

平成十六年度予算は、平成十六年三月十一日開催された理事会において決定された。本年度は、人件費、教育研究経費、管理経費等経常費の減額を実施したため、繰越金を含む資金収支予算総額は、前年度より

り二億二千万円程減少して約四十八億六千万円となっている。消費収支予算については、基本金組入額が多額であるため、支出超過の予算編成となった。(法人本部 財務局 記)

平成十六年度予算の概要

大学(札幌キャンパス)

デザイン学科デザイン教室

渡辺 勉 教授(助教)

名取 武雄 教授(助教)

松岡 龍介 助教(専任講師)

内藤 克人 助教(専任講師)

伊藤 裕康 助教(専任講師)

佐藤 善太郎 助教(専任講師)

長森 正 助教(専任講師)

田崎 元久 助手(副手)

石垣 久美子 研究室係長(学部長付、2号館研究室担当)

(主査)(学部長付、2号館研究室担当)

古田 雅宣 参事 学部第一次長(参事補 第一学生課長)

坂下 望 参事 学生部第二次長(参事補 就職課長)

田代 正信 参事補 第二学生第二課長待遇(生活指導)

学生課長補佐待遇(生活指導)

本部

高橋 政次 施設課員(主査)(車輛担当)

佐藤 直人 一級主事 課員(車輛担当)

經理課長補佐(主事 經理係長)

小西 千春 經理係長(經理課員(主査))

梶村 睦 主事 企画(広報調整 係長(主事補 企画(広報調整) 課員(主査))

立上 敬一 入試室次長(大学(札幌キャンパス) 教務部次長)

田中 孝征 入試第一課長(入試課長)

酒井 純一 入試第二課長兼大学(紋別キャンパス) 事務部次長(兼教務課長)(紋別キャンパス勤務)

(入試室次長兼大学(紋別キャンパス) 事務部次長(兼教務課長)(紋別キャンパス勤務))

藤田 仁志 入試第四課長兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長(大学(札幌キャンパス) 情報課長兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長)

村井 久幸 入試第一課長補佐(入試第三課長補

異動

平成16年4月1日付

大学(紋別キャンパス)

日和田 吉彦 教務第一係長(教務課長補佐)

澤田 豊子 教務第二係長(教務係長)

空 佳裕 学生係長(入試第六課長補佐(紋別キャンパス勤務))

伊藤 修 庶務・施設課長兼学園本部經理第二課長(紋別キャンパス勤務)

(庶務・施設課長)

大澤 尚文 図書情報係長(図書情報課長補佐)

猪口 和子 国際意匠研究所編集課長(研究室課長)

大川原 幸男 第二学生第二課長待遇(生活指導)

(第二学生課長待遇(生活指導))

大学(札幌キャンパス)

松浦 憲之 第一学生課員(就職課員)

岡本 麻紀 就職課員(教務課員)

堤 珠美 庶務課員(第一主査)(庶務課員(主査))

林 素子 庶務課員(第二主査)(兼事務局長付)

(大学秘書室秘書課員厚生担当主査)(札幌キャンパス)

布広 成規 全学部改組事務課長(大学院設置事務課長)

三浦 和子 全学部改組事務課員(大学院設置事務課員)

東 政憲 図書情報課長(図書課長)

日置 浩一 図書情報課長補佐兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長補佐(情報課長補佐兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長補佐)

佐 隆之 入試第二課長補佐(入試第四課長補佐)

阿部 真司 入試第三課長補佐(入試第二課長補佐)

櫻岡 秀樹 入試第四課長補佐(入試第五課長補佐(紋別キャンパス勤務))

木村 聡 入試第五課長補佐(紋別キャンパス勤務)

(大学(紋別キャンパス) 学生課長補佐)

日和田 吉彦 教務第一係長(教務課長補佐)

澤田 豊子 教務第二係長(教務係長)

空 佳裕 学生係長(入試第六課長補佐(紋別キャンパス勤務))

伊藤 修 庶務・施設課長兼学園本部經理第二課長(紋別キャンパス勤務)

(庶務・施設課長)

大澤 尚文 図書情報係長(図書情報課長補佐)

猪口 和子 国際意匠研究所編集課長(研究室課長)

大川原 幸男 第二学生第二課長待遇(生活指導)

(第二学生課長待遇(生活指導))

大学(札幌キャンパス)

松浦 憲之 第一学生課員(就職課員)

岡本 麻紀 就職課員(教務課員)

堤 珠美 庶務課員(第一主査)(庶務課員(主査))

林 素子 庶務課員(第二主査)(兼事務局長付)

(大学秘書室秘書課員厚生担当主査)(札幌キャンパス)

布広 成規 全学部改組事務課長(大学院設置事務課長)

三浦 和子 全学部改組事務課員(大学院設置事務課員)

東 政憲 図書情報課長(図書課長)

日置 浩一 図書情報課長補佐兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長補佐(情報課長補佐兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課長補佐)

国沢 範夫 図書情報係長(図書係長)

板垣 美幸 図書情報課員(主査)(図書課員(主査))

内藤 義宏 図書情報課員兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課員(図書課員)

樋口 敏弘 財務部次長(兼經理第一課長)

部次長(兼經理課長)

田中 弘志 主事補 企画(広報調整) 課員(主査)(大学(札幌キャンパス) 教務係長)

佐藤 敏克 総務部長(人事部長)

高杉 雅史 総務係長(人事第一係長)

湯浅 頼佳 人事係長(人事第二係長)

近藤 保義 全学部改組事務室長兼務

ハイテクアート室管理課員(情報課員兼マルチメディア及びハイテクアート室管理課員)

島山 桐子 図書情報課員(図書課員)

樋口 敏弘 財務部次長(兼經理第一課長)

部次長(兼經理課長)

田中 弘志 主事補 企画(広報調整) 課員(主査)(大学(札幌キャンパス) 教務係長)

佐藤 敏克 総務部長(人事部長)

高杉 雅史 総務係長(人事第一係長)

湯浅 頼佳 人事係長(人事第二係長)

近藤 保義 全学部改組事務室長兼務

大倉 司 国際福祉研究所所長兼務(国際福祉研究所副所長兼務)

田崎 元久 体育施設管理課員(主査) 兼務(体育施設管理課員兼務)

兼務異動 平成16年4月1日付

大学(紋別キャンパス)

米野 宏 体育施設管理

兼務

平成16年4月1日付

大学(札幌キャンパス)

近藤 保義 全学部改組事務室長兼務

大倉 司 国際福祉研究所所長兼務(国際福祉研究所副所長兼務)

田崎 元久 体育施設管理課員(主査) 兼務(体育施設管理課員兼務)

兼務異動 平成16年4月1日付

大学(紋別キャンパス)

米野 宏 体育施設管理

兼務

平成16年4月1日付

大学(札幌キャンパス)

近藤 保義 全学部改組事務室長兼務

大倉 司 国際福祉研究所所長兼務(国際福祉研究所副所長兼務)

田崎 元久 体育施設管理課員(主査) 兼務(体育施設管理課員兼務)

兼務異動 平成16年4月1日付

大学(紋別キャンパス)

米野 宏 体育施設管理

課長兼務(体育施設管理
課長補佐兼務)

舟山 泰裕 体育施設管

理課長補佐兼務(体育施
設管理課長兼務)

退職 平成16年3月31日付

大学 齊藤 由実 主事補

大学(紋別キャンパス)

佐藤 清六 教授

松浦 信 助教授

中西 淑恵 専任講師

富樫 陽子 助手

久保田 典子 主事補

松本 佳代 主事補

大学(札幌キャンパス)

横平 弘 教授

高谷 克郎 教授

榊湯 宏郎 参事

柄本 保男 一級主事

笹森 弥生 主事補

北田 穰 参事補

本部 後藤 史子 主事補

慶弔録

大学(札幌キャンパス)

大鎌 輝栄殿 大鎌 勝

義(建築学科教養教室教

授)御尊父

柴田 一雄殿 柴田 武

輔(施設課長補佐)御尊

父

平16・3・15

はまなす門

「咸臨丸の偉業に想う」

道南の木古内町から津軽海
峡に突き出した「サラキ岬」
は、海岸線も広く風光明媚な
ところである。草花に彩られ
る初夏の丘陵は美しい。

「咸臨丸」は一八七二(明治
四)年秋、本道特有の荒れ狂
う暴風雨に遭遇し激浪に漂蕩
し「サラキ岬」で破砕した。

功成り名を遂げた栄光の誇
り高き船が、機関をはずし三
本のマストの老帆船となり、
北海の怒濤に身をさらすとは
誠に悲惨である。

同船は、江戸幕府が海軍創
建のためオランダに発注し、
「ヤパン(日本)号」として
完成のあと日本に回航された
木造の軍艦である。
長さ四七m、幅七m、一〇〇
馬力のエンジンと三本マスト
を持った三〇〇tの蒸気船で
砲一二門を装備していた。

一八六〇(安政七)年、日
米通商条約批准書交換使節の
渡米に際し、艦長勝海舟をは
じめ日本人九〇人が乗り組
み、四三日間でサンフランシ
スコに到着した。

航海中晴天わずか数日、まさ
に命的にかけた未知の海へ
の挑戦は日本人最初の太平洋
横断の快挙となった。

「森に暮らす芸術家の家を 設計してください」

～第1回道都大学美術学部高校生
住宅設計コンクールの作品募集～



募集ポスター

<http://www.dohto.ac.jp/comp04/>

その後、戊辰戦争で榎本武
揚の艦隊に参加、さらに北海
道開拓使に移管され沿岸の運
送船となった。この間何度も
座礁の憂き目にあったが、そ
のたび毎に困難を克服し、そ
の生涯を全うした。

それにしても、ペリー来航
から七年も経ずにして、日本
人の手で成し遂げられた壮舉
を想うとき、艱難辛苦に丸
となって立ち向かう勇氣の尊
さを教えられる。

(参考資料 木古内町史)

(法人本部常務理事・人事局長
栗原 勇介 記)

教育課程がめまぐるしく変化
するなか、高等学校では生徒の
学習意欲向上や多様な興味に応
えられるよう、さまざまな取り
組みが模索されています。建築
系課程を有する高等学校では、
大学が行う設計競技を授業に取
り入れ、積極的に応募している
ところもあります。今年度本学
では、高等学校の教育効果の一
端を担うべく、「第一回道都大学
美術学部高校生住宅設計コン
クール」を実施します。

第一回の課題は、「森に暮らす
芸術家の家」をテーマとして、
道都大学国際建築研究所長倉本
龍彦教授が審査委員長を務め、
彫刻家の本学デザイン学科ケ
ン・イケダ助教授、本学建築学
科卒業生の作曲家原田健司氏に
審査員をお願いしました。課題
内容は、芸術家(彫刻家、演奏

家)が森に暮らし、創作活動と
展示・発表を行い、仲間や友人
を招いて交流を深める空間を求
めるものです。北海道の大学が
主催する初めての高校生対象設
計コンクールなので、大自然を
強く意識した課題となりました。
道内はもとより、道外の多
くの高等学校から応募作品が寄
せられることが期待されます。
応募締切は七月二十六日(月)
となっております。八月八日(日)
に開催される道都大学サマー
オープンキャンパスで公開審
査、入賞者表彰を行います。さ
わやかな北海道の夏を満喫し、
素敵なキャンパスを見ていただ
きを、本学への関心が高まること
を願っております。

(建築学科長
教授 伊藤 寛 記)